家政教育・金子 省子

１．授業科目の概要

学校教育教員養成課程家政教育及び家庭科教員免許の選択科目,保育士コース必修科目である。受講生は，家政教育 3・4 回生 5 名，初等教育 3 回生 13 名、学校教育 4 回生 3 名の計 21 名。

授業形態は,講義が中心で, 教科書及び授業概要のレジュメ･資料を配布,一部パワーポイントを用いた。また，児童相談所・児童虐待に関連するビデオを使用，グループディスカッションの時間を複数回設けた。法制度と実施体制の講義後各分野にはいる前に確認テストを行い知識の定着を確認し，最終試験を中心に提出物を含め評価した。

２．授業アンケートの結果に基づく分析

（１）授業の DP アンケート結果

学部 DP１（知識・理解）に関する科目として，到達目標を掲げている。「知識・理解」について，「とても」が 9 名，「ある程度」が 10 名。 授業時間外学習は週 1 時間がほとんどだった。11 名が子どもと家庭への支援や情報提供など身についたスキルについて回答している。

（２）授業についての独自アンケートの結果

8 項目（「出席状況」「シラバスの提示,予定の伝達」「授業テーマと構成・展開」「教科書・配布資料使用」「進度や難易度」「意見発表や意見交換の機会の保障」「授業時間外課題」「意欲をもって学びたい課題の発見」）について 5 段階評定（a～e）で回答を求め,良かった点･改善点について自由記述で回答を求めた。回答者数は 21 名だった。例年ばらつきのある「学びたい課題の発見」も含めほぼ肯定的な意見（a ,b）だった。

良かった点として，情報収集課題とディスカッションについてその成果を捉える回答が多く見られた。特に情報を得る人の立場を想定したり，意見交換をしたことが印象に残ったとしていた。また，課題領域について話題となっている具体的な事例を取り上げたことを評価する意見もあった。一方，問題点としては，配布のレジュメを詳細にしてほしいという意見，パワーポイントのプリントを求める声もみられた。進度･難易度で「やや難」が 9 名みられたことから，学生の理解度を考え，進度と情報量についてはさらに検討する必要がある。

３．地域社会を核とした教育と研究のつながり

（１）地域子育て支援情報の収集から学ぶ

まず，児童問題に関する受講生の問題関心を明確にするため新聞記事等の収集・発表を促した。中盤の回では，地域子育て支援情報の収集に限定し，いろいろな立場を想定して情報収集することを課した。そして記載したシート（対象地域，情報源・アクセス，想定した立場，内容，気づき）をもとにグループで話し合う時間を設けた。例えば「県外から転居予定で，保育所を探す保護者」などの具体的な設定を各自が行い，自治体 HP の活用の容易さなどを当事者の視点でチェックすることができた。松山市を中心に，出身地を対象とする学生もみられ，自治体間の相違を捉えることもできたと思われる。

（２）各地の児童虐待についての解決の取り組みから学ぶ

児童虐待についての学習で全国的な活動を行う NPO を紹介した後，各地の取り組みを捉える課題を課した。これにより，出身地や愛媛県内の民間等の活動の有無を捉え，厳しい状況の中で公的支援だけでないかかわりが行われていることや，その必要性があることの理解が進んだと考えられる。

上記（１）（２）については，教員がこれまでに松山市の保育・子育てに関する調査を行い，県の福祉・子育て支援にかかわっていることから，地域の情勢や課題に関連づけ，当事者性の重視の視点を伝えることができたと考える。

４．次年度に向けて

身についた力や今後の学習への意欲が例年に比べ高く表明されており，試験から捉えられた知識の定着についても全体によい年度だった。しかし，配布資料のうちレジュメについての意見が複数あったことから，教科書と配布資料，教員の話の対応と展開をより明確にして，相乗効果があらわれるようさらに工夫をする必要がある。情報収集の課題・コメントシート作成とディスカッションについては，立場の想定や情報源の意識化をはかる指示を，シート等でより明確にしたことで，学生の主体的な取り組みの成果がみられたことから，次年度も継続して取り入れていきたい。